

# イタリア料理社長「メモス」 カンタトーレ・ドメニコさん

## 日伊の食文化を橋渡し

◆交換留学生として来日  
「私が日本に来た時は、まだ外国人が珍しいらしいと思うような指をさされました」と連者な関西弁で苦笑いを浮かべる。

メモス社長のカンタトーレ・ドメニコさんが来日したのは昭和四十年。交換留学生として京都大学に籍を置いた。イタリアの名家の生まれで、父は弁護士。ファミリーに乗り、乗馬クラブにも通うという、絵に描いたようなエリート学生だった。

しかし卒業後の進路を巡って父と対立。仕送りが一



### 橋渡し 関西・二人

切ストップしてしまう。関西で言う単なる、ぼんぼん、ならば、尻尾を巻いて母国に逃げ帰るところ。しかし人間追い込まれると、隠れていた才覚が顔を出す。

「食べるために太秦の映画村でエキストラをしたり、英会話学校を作ったりもしました」

しかも次第にそれだけでは飽きたらなくなった。

◆オイルショックも好機  
「日本とイタリア文化の

「どの会社を見ても、事業規模を縮小してしまし

た。でも私は逆にチャンスだと思ひ、広い事務所を借りて拡大戦略を取ったんです」

「商品の選択で大切なのは自分の考えに固執するのはなく、市場の要望に真正に耳を傾けること。エンターゼーの声を、自分の耳で聞き判断することです」

「あのころはイタリア料理と言えは、パスタとスパゲティくらいしかどの店も出してなかった。でも私は料理を通じて、もっとイタリアを知って欲しい。同時にニーズもきつとある。そう思って採算は考えずに始めました」

## 多くのシェフが独り立ち

カンタトーレ・ドメニコ 1942年、イタリア生まれ。65年パリ大学法学部卒業、67年留学先の京都大学卒業。70年に(有)メモスを設立して代表取締役。82年イタリアンレストラン「コロッセオ」開業。83年(株)メモスに変更。在日伊商工会議所会員。56歳。

が大成功。その後、この店で修行した多くのシェフが独り立ちし、現在のイタリア料理界を支えていると言っても過言ではない。

「これからは先を読むことがますます大事。パブルが弾けて財布のヒモが固くなっても、イタリアメシの味が忘れられない人は自宅でワインやパスタを楽しむに違いない。そう考えて、イタリア食材の輸入も始めて成功しました。でもビジネスでは自分だけ儲けるのはダメ。相手も儲けるような関係を築いていかないと」

「不況が続く中、日本人が失いつつある。思いやりの心。を大切に育み続けているカンタトーレさん。

「またうちのレストランに食べに来てや」という言葉が温かく心に響いた。

(岡本 弘)

住所／大阪市中央区南船場2丁目7番16号 同光ビル

TEL 06・264・515

1◇創業／昭和45年◇資本金／1000万円◇年商／15億円

「メモス」